

## 【2023年度 決算の概要】

### 『資金収支』について （資金収支計算書等 別紙1、参考資料1参照）

単年度における資金収入は、学生生徒等納付金収入、寄付金収入等が対前年比で減少したものの、殆どの収入科目で予算を上回ったことから、対前年比では100百万円減収となるも対予算比では49百万円上回る結果となった。資金支出は、教育研究経費支出、施設・設備関係支出が対前年比で増加となったものの、殆どの支出科目で予算を下回ったことから、対前年比では143百万円の支出増となるも対予算比では153百万円の支出減となった。その結果、当該年度における収支は対前年比では大幅に減少したものの、対予算比では202百万円の上振れとなり236百万円の収入超過となった。

#### ○資金収入

学生生徒等納付金収入は予算どおりの結果となった。寄付金収入は能登半島地震支援金・見舞金を計上したことから特別寄付金が増加となっている。手数料収入は志願者数が見込みより増加したことから予算を上回る結果となっている。補助金収入は、大短において予算を下回った補助金があったものの、施設型給付費加算措置の増加等により、国庫を除く県費・市費・施設型給付費において予算を上回っている。付随事業・収益事業収入は、公開講座受講者の減少、外部試験の受験者減少により予算を下回った。雑収入は施設外部貸出の増加、部活動全国大会関連収入の増加により予算を上回った。

#### ○資金支出

人件費支出は、教員超過勤務手当の減少、給与本俸の減少等により予算を下回った。教育研究経費・管理経費支出は、光熱水費予算における余剰が大きく影響するなどし予算を下回った。なお、両科目において能登半島地震復旧費として予備費64百万円を計上している。施設・設備関係支出は、本館エレベータ更新費用の減等により予算を下回った。

### 『事業活動収支』について （事業活動収支計算書等 別紙2、参考資料2参照）

事業活動収入計において予算を上回ったことに加え、事業活動支出計において経費が大きく減少したことにより、基本金組入前当年度収支差額は大幅に上振れし、予算時の支出超過から転じて収入超過となった。

#### ○教育活動収支

増加要因等は、上記記載の資金収支同様である。

#### ○教育活動外収支

ほぼ予算どおりとなった。

#### ○特別収支

施設設備更新に伴う除却や老朽化設備の廃棄等により、資産処分差額（支出）が増加したことにより収支差額は予算を下回った。

#### ○基本金組入前当年度収支差額

収入の増加と支出の減少により、予算を大きく上回る収入超過となった。

#### ○基本金組入額合計

基本金組入済の施設設備の除却や老朽化設備の廃棄等を行ったが、新たな施設設備の取得価額を繰り入れたことにより組入額は増加した。

#### ○当年度収支差額

上記記載により、当年度収支差額は収入超過となっている。

### 『貸借対照表』について （貸借対照表 参照）

当年度末においては、資産の増加と負債の減少により純資産が191百万円増加となっている。

#### ○資産の部

固定資産においては、新キャンパス用地造成費による土地の増加、高校人工芝グラウンド敷設による構築物の増加はあったものの、その他の有形固定資産は減価償却実施により減少となっている。また、特定資産は繰入を行い増加となっている。その他の固定資産は、有価証券、長期前払い金の減少等により減少となっ

ている。流動資産は、現金預金が増加したものの、未収入金が減少した結果、僅かに減少している。

○負債の部

固定負債は、返済計画に基づく長期借入金の返済による減少、退職給与引当金の増加により、対前年比減少。また、流動負債は未払金、修学旅行預り金、科学研究費預り金は減少、前受金・預り金が増加した結果対前年比僅かに減少した。

○純資産の部

第1号基本金は、当年度取得の施設設備(現物寄付・除却を含む)、借入金返済(大学グローバル館・中高総合寮)により増加(基本金明細表参照)。第2号基本金は、組入計画に基づく繰入を行い増加となっている。第4号基本金は変化なし。

繰越収支差額は、249百万円の減少となった。これらにより、純資産の部合計は前年度より191百万円増加している。